

きょう と し た ぶん か し さく こん わ かい 京都市多文化施策懇話会 ニュースレター No.3

へんしゅう ほっこう きょう と し た ぶん か し さく こん わ かい じ む きょく きょう と し そうごう き かく きょく こく さい か すい しん しつ
編集／発行：京都市多文化施策懇話会事務局（京都市総合企画局国際化推進室）
2011（平成23）年3月31日発行

2010（平成22）年度第3回会議を開催しました

- <日 時> 2011（平成23）年2月14日（月）午前9時30分から12時まで
<場 所> 本能寺文化会館
<議 題> コミュニケーション，子育てから見た多文化共生について
2010（平成22）年度の報告書について



第3回会議では、外国人学校の活動と多文化・多言語の教育についての報告，多文化の息づく福祉とそこから見えてくるコミュニケーションについての報告を，それぞれ担当委員がおこないました。また，1年間の会議の内容を踏まえて，懇話会から市長へ提出する報告書について議論しました。

報告1 外国人学校の現場から

京都市内で活動しているフランス人学校の取組と，多文化が触れ合う教育について。

報告2 多文化の息づく福祉について

在日韓国・朝鮮人一世の方が母国語で介護を受けられるように，という願いから始まった福祉活動について。また，そこから見えてくるコミュニケーションと多文化共生の姿について。

がいこくじんがっこう ほうこく 外国人学校についての報告

かんさい がくいん とりくみ ～関西フランス学院の取組～

かみぎょうく もとたいけんしょうがっこう こうしゃ かつどう かんさい がくいん にほん かしょ
上京区の元待賢小学校の校舎で活動している関西フランス学院は、日本に2ヶ所あるフ
らんすじんがっこう にちふつりょうこく た こくせき も
ランス人学校のひとつです。フランスや日仏両国、その他さまざまな国籍やルーツを持つ、幼
ちえん こうこうぶ やく めい せいと ざいせき にちふつりょうこく ぶんか げんこ まな
稚園から高校部までの約70名の生徒が在籍しています。日仏両国の文化・言語を学ぶこと
のできるにしにほん ゆいいつ じんがっこう こども がっこう つうがく
の西日本で唯一のフランス人学校であり、なかには子供がこの学校に通学するために
きょうと す おや ちゅうごく ちほう ちゅうぶ ちほう えんぼう つうきん かに
京都に住み、親が中国地方や中部地方など遠方に通勤する家庭もあります。

かんさい がくいん せいふ せいかいこく じんがっこう きょうりょく れんけい た
関西フランス学院はフランス政府や世界各国のフランス人学校と協力・連携しながら、多
ぶんか きょういく ぶんか ほっしん とく たいけんくみんたいいくさい さんか
文化教育とフランス文化の発信に取り組んでいます。また、待賢区民体育祭への参加をはじ
め、ちいき こうりゅう とりくみ すす かつどう きょうとし こくさいか たぶんかりかい そく
地域と交流する取組も進めており、こういった活動が京都市の国際化・多文化理解の促
しん
進にもつながっています。

たんとう いん いけん －担当委員の意見－

ぎょうせい しえん がいこくじんがっこう こうしゃ かくほ がっこううんえい おこな かん
・行政からの支援なしに、外国人学校が校舎の確保など学校運営を行うことはできない。関
さい がくいん きょうとし きょうしょうがっこうこうしゃ うんえい おこな こんこ ぎょうせい ちいきしゃかい
西フランス学院は京都市の旧小学校校舎で運営を行っているが、今後とも行政・地域社会
きょうりょく かつどう ひろ
と協力して活動を広げていきたい。

にほんこくせき せいと がっこうきょういくほう さだ がっこう かよ ぎむ がいこくじんがっこう つう
・日本国籍の生徒は、学校教育法で定められた学校に通う義務があるため、外国人学校に通
がく
学することはできない。しかし、もし外国籍、日本国籍、二重国籍と、様々な文化的背景
こども がいこくじんがっこう とも まな ぜつこう こくさいか きょういく たぶんかきょういく
のある子供たちが外国人学校で共に学ぶことができれば、絶好の国際化教育、多文化教育
ば
の場となるのではないか。

かんさい がくいん ■ 関西フランス学院 ■

きょうとし かみぎょうく わらや ちよう ばん ち
〒602-8144 京都市上京区藁屋町536番地1 (075)812-7015

コラム

きょうと 京都インターナショナルスクール (KIS)

ねん いじょう きょうとし かつどう えいご きょういく がいこくじんがっ
KISは、50年以上にわたって京都市で活動してきた、英語で教育を行っている外国人学
こう
校です。1997(平成9)年からは、にしじん もとじゅうらくしょうがっこうこうしゃ かつどう ようちえん
西陣の元聚楽小学校校舎で活動しています。幼稚園ク
ちゅうがくせい ぶんか てきほけい も こども かよ
ラスから中学生クラスまで、さまざまな文化的背景を持つ子供たちが通っています。

にしじん ちく きょうと でんとうてき おりものさんぎょう ちゅうしん ち じもと でんとうさんぎょうかんけいしゃ
KISのある西陣地区は、京都の伝統的な織物産業の中心地です。地元の伝統産業関係者や
だいがくかんけいしゃ かがたがた きょうりょく え ちいき とくしよく い がくしゅう じっし
大学関係者の方々の協力を得て、地域の特色を活かした学習カリキュラムを実施しています。
また、じもと しょうがっこう こうりゅう にほんご じゅぎょう ちから い ちいき つな たいせつ
地元の小学校との交流や日本語の授業にも力を入れています。地域との繋がりを大切
きょうとし こくさいか たぶんかきょうせい こうけん かんが
にししながら、京都市の国際化と多文化共生に貢献していきたいと考えています。

きょうと ちょうせんがっこう
京都朝鮮学校

京都市内には、初級学校と中高級学校を併せて4つの朝鮮学校があります。日本で生まれ育った朝鮮半島にルーツのある子供たちが、日本と朝鮮両方の言語と文化を学んでいます。朝鮮語での授業のほか、サッカー、吹奏楽などクラブ活動の練習にも力を入れており、地域の学校との交流会などで練習の成果を披露しています。また学校の活動を広く市民の皆さんに知ってもらうため、公開授業を行っています。秋の芸術発表会は、朝鮮民族の伝統的な舞踊の披露や楽器の演奏などを通して、市民の方に朝鮮の文化に触れていただく機会となっています。

たぶんか いき ふくし ほうこく
多文化の息づく福祉についての報告

ほうじんきょうと せいかつ とりくみ
～NPO法人京都コリアン生活センター「エルファ」の取組～

「エルファ」は南区を中心に多文化・多言語の福祉活動を行っているNPO法人です。朝鮮半島で生まれ育った在日韓国・朝鮮人一世の高齢者のなかには、認知症などで母国語しか話さなくなってしまう方もおられます。特にこういった一世の方に、母国語でもコミュニケーションのできる環境で介護を提供したい、という思いからエルファはスタートしました。

これまでの活動で、介護する側が利用者の方から学ぶ経験をたくさんしてきました。在日一世の高齢者の方は、かつて言葉の通じない日本で生活をつくり上げた人たちなので、「母国語は大事だけれども、それだけがコミュニケーションではない」ということを、介護する側に体験として教えてくれました。

現在ではエルファは福祉にとどまらず、「エルファまつり」など地域住民と触れ合う多文化交流の活動を行っています。こういった活動が、国籍や世代、障害の有無などを超えてさまざまな人が「地域で共に生きる」まちづくりにつながるものと考えています。

たんとういん いけん
－担当委員の意見－

- ・ エルファの活動を支えている人には、朝鮮学校出身の方が多。二世、三世が「朝鮮学校をつくってくれた一世のために」という思いで始めた活動だが、現在では「在日韓国・朝鮮人のための介護」ではなく、福祉を通して多文化が実現する場所そのものとなっている。
- ・ かつては外国籍市民には公的な保険・年金などへの加入が認められていなかった。生活や文化の違いだけでなく、長いあいだ日本の福祉制度の対象になっていなかったことが、在日一世の高齢者問題を、より難しいものにしていく。

ほうじんきょうと せいかつ
■ NPO法人京都コリアン生活センター「エルファ」 ■

〒601-8022 京都市南区東九条北松ノ木町12

TEL (075)693-2550 FAX (075)693-2555 ホームページ : <http://lfa-kyoto.org/>

多言語での防災の取組について

2011(平成23)年3月11日に発生した東日本大震災では、日本語能力が十分でない外国籍等の方へ向けた災害対策が、改めて課題となりました。京都市では、外国籍等の方へ向けて、さまざまな防災の取組をおこなっています。

—多言語での携帯用災害マニュアルの配布—

ポケットサイズの災害マニュアルを4ヶ国語で作成し、京都市国際交流会館などで配布しています。

—FMラジオでの災害情報の放送について—

災害時には、FM CO・CO・LO(周波数:76.5MHz)において日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語の6言語で災害情報を緊急放送します。

—メールマガジン「多言語便利情報」の発信—

日・英・中3ヶ国語併記で配信しているメールマガジン「多言語便利情報」のなかで、京都市で震度5強以上の地震が発生した場合に、震度や避難所の一覧・地図などの災害情報を配信します。このほか、京都市の防災訓練などの情報もメール配信しています。

(メールマガジンの配信登録はこちらから http://www.kcif.or.jp/MMD/accept_mails)

—京都市の防災訓練について—

京都市が実施している防災訓練には、外国籍等の市民にもたくさん参加していただいています。また、この防災訓練で、各避難所で多言語での被災者支援をおこなう「外国人支援センター」の設置訓練も行っています。

—京都市市民防災センター— (南区西九条菅田町7(国道1号線十条上ル東側) TEL:075-662-1849)

市民の方が地震、台風、火災などの災害について、防災知識を学習するだけでなく、災害の脅威を擬似的に体験したり、防災訓練ができるコーナーなどを設けています。

事務局からのお知らせ

本ニューズレターや懇話会に関する御意見などがございましたら、下記までお寄せください。

(懇話会の会議はどなたでも傍聴することができます。)

京都市多文化施策懇話会事務局 (京都市総合企画局国際化推進室)

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

TEL075-222-3072 FAX075-222-3055 Eメール:kokusai@city.kyoto.jp

ホームページ: <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000085281.html>